

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90220	西洋音楽史研究	4単位 通年	1・2	講義	向井大策

■テーマ 作曲家の個人様式と時代様式の関係について考察する。

■授業の概要

クロード・ドビュッシー（1862～1918）とモーリス・ラヴェル（1875～1937）のピアノ音楽や管弦楽曲、歌曲、室内楽曲などをとりあげ、この両作曲家の個人様式の共通性と違いを、楽曲分析と美学的な背景に関する考察を通して明らかにする。とりわけ、このふたりの作曲家が、文学・絵画などの音楽以外の分野との「照応（コレスポンダンス）」を通じ、どのようにして独自の音楽様式を確立していったかを、「ベル・エポック」と呼ばれた、この時代特有の文化的背景を通して考察したい。

■到達目標

- ・和声やテクスチュアの面において複雑な面をもつドビュッシーとラヴェルの音楽を分析的な観点から理解する。
- ・ドビュッシーとラヴェルが独自の音楽様式を確立するに至った、文化的・美学的な背景について理解する。
- ・ドビュッシーとラヴェルの個人様式を把握することで、作品研究や演奏解釈の手がかりをつかむ。

■授業計画・方法

前期

1. 導入
2. ドビュッシー、ラヴェルとその時代 概説 (1)
3. ドビュッシー、ラヴェルとその時代 概説 (2)
4. ドビュッシーのピアノ音楽の分析 (1)
5. ドビュッシーのピアノ音楽の分析 (2)
6. 参加者の研究発表 (1)
7. 参加者の研究発表 (2)
8. ドビュッシーの管弦楽曲の分析 (1)
9. ドビュッシーの管弦楽曲の分析 (2)
10. 参加者の研究発表 (3)
11. 参加者の研究発表 (4)
12. ラヴェルのピアノ音楽の分析 (1)
13. ラヴェルのピアノ音楽の分析 (2)
14. 参加者の研究発表 (5)
15. 参加者の研究発表 (6) /前期のまとめ

後期

16. 後期の導入
17. ドビュッシーとラヴェルの歌曲の分析 (1)
18. ドビュッシーとラヴェルの歌曲の分析 (2)
19. 参加者の研究発表 (6)
20. 参加者の研究発表 (7)
21. ドビュッシーとラヴェルの室内楽曲の分析 (1)
22. ドビュッシーとラヴェルの室内楽曲の分析 (2)
23. 参加者の研究発表 (8)
24. 参加者の研究発表 (9)
25. ラヴェルの管弦楽曲の分析 (1)
26. ラヴェルの管弦楽曲の分析 (2)
27. 参加者の研究発表 (10)
28. 参加者の研究発表 (11)
29. ドビュッシーとラヴェルの音楽様式——差異と共通性
30. まとめ。定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・講義や研究発表でとりあげられる作品については、可能な限り、楽譜を準備すること。
- ・それぞれの回でとりあげられる作品については、事前に観賞し、概要を把握しておくこと。
- ・講義でとりあげる内容をより深く理解するために、以下に紹介する参考文献を、授業と平行して読み込んでいくことが望ましい。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 50%、研究発表 30%、期末レポート（前期・後期各1回ずつ） 20%

芸術文化学研究所（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書

□テキスト

□参考文献

松橋麻利『ドビュッシー』（音楽之友社 作曲家・人と作品シリーズ）

ヴラディミール・ジャンケレヴィッチ『ドビュッシー——生と死の音楽』船山隆、松橋麻利訳（青土社）

アービー・オレンシュタイン『ラヴェル——生涯と作品』井上さつき訳（音楽之友社）

オリヴィエ・メシアン『メシアンによるラヴェル楽曲分析』野平一郎訳（全音楽譜出版社）